



NEWS RELEASE

2014年1月6日
東ソー株式会社

社長年頭挨拶（1月6日、東ソー本社での年頭訓話から抜粋）

明けましておめでとう。今年も皆さんや皆さんのご家族にとって、良い年になりますようお願いしています。

昨年2013年の国内経済は、アベノミクスによって、円安、株高になり、ムードはそれまでに比べ大分改善された。しかし、肝心の成長戦略の具体化が遅れており、実態はそこまで改善していない状況だ。海外では、米国がシェールガス、オイルによって景気が上向きになり、自動車生産や住宅着工も増加したが、欧州は相変わらず低迷している。当社にとって非常に大きな影響のある中国は成長が鈍化しており、特に化学品の伸びが止まっている。また、米国の金融緩和の縮小懸念から、東南アジアから資金が引き揚げられ、特に、スタトマーがあるインドネシアでは経済成長が阻害されている。

このような状況下で、今年の取り組むべき経営課題は、第一に日本ポリウレタン工業との合併である。昨年発表したように、当社と日本ポリウレタン工業は、今年10月1日合併に向けた準備作業に入っている。隣同士の会社、100%子会社との合併とは言え、生まれも育ちも違うため、準備作業ではいろいろな場面で両社の意見がぶつかることになると思う。「合併を成功させるにはどうすべきか」で判断し、対処してほしい。当社は、1975年に鐵興社と、更に1990年に新大協和と合併している。この2回の合併の経験を生かして、今回も絶対成功させる決意である。

第二に安全改革と設備管理である。2011年11月のVCM爆発事故の再発防止のために、2012年8月から始めた安全改革が期待した成果を上げていなく、今までの取り組み方ではいけないということだ。南陽、四日市両事業所で、安全改革は他人事だと言う人をなくし、一人一人が自分の問題として安全改革を捉えられるようするための方法を見つける必要がある。事業所長の指揮による早急な対応を指示している。

第三にコモディティ事業の収益改善である。石油化学事業でやるべき事は、生産、物流でのコストダウン、原料及びユーザー各社との関係強化、特徴あるグレードの開発等の地道な努力である。クロル・アルカリ事業では、ウレタン事業の黒字化が見えてきた中で、いよいよビニルチェーンの収益改善に焦点が移る。誘導品含めてトータルとして、どういう方策が良いのか、まさに当社のコーポレートとしての大きな課題である。今年も、事業部、事業所、本社部門を巻き込んで、これに取り組む。

第四にスペシャリティ事業の拡大である。スペシャリティ事業の中で赤字のエチレンアミンについては対応策の一つとして、昨年、3系列あるエチレンアミン製造設備のうち、一番古い第1系列の廃止をした。ハイアミンの価格修正等により、2014年度の黒字化を目指す。収益拡大のためには、既存スペシャリティの量的拡大と新規商品の上市が欠かせない。自動車排ガス触媒と石油石化向けが好調なハイシリカゼオライト、新しいアミン系ウレタン発泡触媒「RZETA®」、この他、トヨパール®、AIA®等のバイオサイエンス関連、東ソー日向での化学合成法マンガン酸化物（CMO®）、電子材料関連、さらには光学ポリマー等、チャンスをつかみ、適切な投資を行っていく。

本年の経済動向の先行きは、相変わらず「不透明」だが、注意深く、しかし、決めるべき時に決める経営をしていく所存である。

東ソー株式会社 広報室

東京都港区芝3-8-2 〒105-8623
TEL 03(5427)5103 FAX 03(5427)5195
<http://www.tosoh.co.jp>